

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社クラスタ		
事業所名	やぎあん (ユニット名 1F)		
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	令和1年11月29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和1年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別対応に力を入れています。ひとりひとりの生活習慣や続けたいこと、大事にしたい時間など、その方の生活の継続性を大切にしています。最期まで、ひとりひとりがその人らしく、人生を生きることができるよう、悩みながら、工夫しながら、柔軟な対応を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台市バス停「八木山南5丁目」より徒歩5分、街路樹がある大通りに面している。開設11年を迎え入居者は高齢化し介護度も上がっている。隣接する大家と共有する駐車場で夏祭りやホーム前の落ち葉掃き等で地域住民と交流している。開設当初からの入居者と職員は家族のような関係性であるが、馴れ合いになっていないか、関係性の見直しをおこなっている。職員は、入居者一人ひとりの思いを受け止め自己決定出来るように支援している。入居者は自分の思いが受け止められ、思いが達成されることで自信を持ち生きる喜びとなっている。職員は「入居者と職員は壁を感じない仲の良さである」と話している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 1F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我がままに」を事業所の理念とし、毎年更新している年度の介護目標を「誠心誠意まごころのあるケアをします」としています。	ホーム理念は開設当時の理念を継続している。今年度目標は、開設11年になり入居者との関係が馴れ合いになっているのではないかと反省と意見で管理者が決めた。入居者を大切に考えるようになった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所を地域の方に知ってもらうために、夏祭りを開催しています。介護の相談コーナーを設け、地域の方の相談も受け付けています。芋煮会や清掃活動など、地域の活動にも参加していました。	ホーム主催の夏祭りは今年も回覧板で周知し、70食準備した焼きそばはなくなった。毎年ハロウィンに来訪する園児とのお菓子交換を入居者は楽しみにしている。近隣住民とは街路樹の落葉掃除等で顔馴染みである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の散歩や買い物などを通して、地域の方々に認知症の方の生活を理解してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、開催しています。ご家族様や地域包括支援センターの職員、地域住民や近隣グループホームの管理者などに参加してもらい、活動の報告や意見交換を行なっています。	夏祭りや避難訓練に合わせて開催しているが、開催回数や市職員または、地域包括職員の出席数が満たされていない。推進会議に参加した入居者家族から高齢化に伴った看取りについて質問があった。	県ガイドラインでは市職員または地域包括職員等の出席と年6回の開催を求めている。運営推進会議はホームの質の向上の面から重要であり、取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護事業支援課の関係する係とは、適宜連絡を取り、情報交換をしています。八木山地区の地域包括支援センターとも情報共有をし、地域住民や入居に関しての情報交換を行なっています。	担当課窓口へケア加算の要件や書式について相談した。指導係へ事故の報告など行っている。地域包括主催の「アンガーマネジメント」「排泄について」等の勉強会に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とは」の内部研修を行ない、正しく理解したい上で適切なケアを行なっています。防犯上の理由から深夜帯は玄関の施錠をしていますが、それ以外の時間帯は開放しています。	管理者や職員を講師として内部研修を行っている。命令や上から目線、脅し文句は行いませんという「接遇適正宣言」を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。日常の中の「座ってください」などの事例をもとに行った研修は反省できたと好評だった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と合わせて、「高齢者虐待とは」の内部研修を行ない、正しく理解した上で適切なケアを行なっています。普段から入居者様への言葉遣いや対応などについて、職員間で確認し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居様が実際に成年後見制度を利用されているため、対応することにより学ぶことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には十分に時間を取り、内容に変更がある時にはその都度文書や口頭での説明の機会を作っています。内容が伝わりやすいよう、わかりやすいよう配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には日頃から施設の様子をお伝えする手紙をお送りしています(毎月)。運営推進会議や面会時など、ご家族様と話す機会がある時には、情報交換を積極的に行なっています。	やぎあん新聞を送付することで、家族から詳しく知りたいと電話があった。看取りが近い入居者家族から「好きなものを食べさせて」との要望があったり、「親の変化が認められない」などの相談にのっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期・不定期の面談を行ない、日頃の業務だけでなく、施設をより良くしていくために何が必要か、どうしていったらいいかのアイデアや提案を聞き、代表者に伝えています。	個人面談では「キャリアアップしたい」「基本に戻る」などの個人目標を立て、研修等に参加している。職員意見でスライドシートや加湿器を購入した。入居者の身体変化からベッド柵を可動式手摺りに変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期・不定期の面談を行なっています。事務所内保管の就業規則は、全職員が閲覧できるようになっており、疑問・質問に答えたいです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職スキルアップ研修や認知症介護実践研修(実践者研修)など、外部研修に職員を参加させています。加え、職員から「参加したい」という研修の希望があった際も、参加できるようにしていました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域のグループホームとは、お互いの運営推進会議で情報交換を行なっています。地区のネットワークでの勉強会や他施設での勉強会にも積極的に参加し、自己研鑽や情報交換を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活習慣や生活環境などを知ることにより、安心して落ち着いて生活できるよう、生活の継続性を意識して関係づくり、環境づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧にお話しを聞くようにしています。なかなか来所できない遠方にお住まいのご家族様とも密に連絡を取り合うことで、安心感を持ってもらえるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の生活が当施設内だけで完結するものと考えず、公的・非公的サービスをつなぎ合わせて柔軟に対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者様の立場に立って物事を考えるようにしています。職員でありながらも、時には相談相手になり、時には息子や娘のように近い関係性を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況も理解した上で、施設内で対応できること(通院の付き添いや入院の手続きなど)は代行させてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の老人会への参加を継続するために送迎を行なっていました。長年通われていたスポーツクラブやエステへも、ご希望に合わせて送迎させてもらっています。	以前から通っているエステや、友人と食事に行きたい要望があり支援している。入居者同士で、食事が進まない方に声がけしたり、互いの部屋に遊びに行っている。本人が落ち着かない様子に娘が泊まりに来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的元気な入居者様が、他入居者様に手を貸してくださる場面が多く、お互いがお互いに自然に気遣いをされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご様子を聞かせて頂いたり、亡くなった際にはお通夜や葬儀にお招きいただき、ご自宅に訪問させていただくこともありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のご希望を実現できるよう、できるだけ柔軟に対応させてもらっています。(エステに行きたい、スポーツクラブに行きたい、お酒を飲みたい、たばこを吸いたい、外食したい、麻雀を楽しみたい など)	日常の何気ない会話の中で把握し、自己決定出来るような声がけをしている。シャワー浴の入居者が、2人介助で浴槽に入ること手足が温まり表情が変わった。部屋の表札に俳号を連記した方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の継続性を大切に、入居前まで定期的に利用していた施設やお店は通えるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方を尊重し、その方に安心して、ご自分のペースで過ごしていただけるよう柔軟な対応を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室の担当職員が中心になって、3ヶ月に1度のモニタリングを行ない、ケアプランを見直しています。体調や状態に変化がみられれば、その都度内容を変更しています。	家族の意見は面会時や電話で聞き、医師の意見は往診時に聞いている。外出の機会を増やして欲しいの家族意見に買い物や散歩をプランに入れた。移動時に痛みがある方は医師の指示で様子を見ることとした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい変化でも個別記録に記入し、申し送りを行ない、情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズ(ご希望・ご要望など)には、柔軟に対応しています。活動の場を施設内だけで考えるのではなく、地域資源・社会資源の活用を心掛けていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や老人会や老人クラブ、買い物に行くスーパー、ドライブで出かける自然環境など、その時々に合わせて生活を楽しめるよう、地域資源を活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	たんぼぼクリニックが1ヶ月に2回、訪問診療に来ています。体調管理や相談など、必要な医療を適切に受けられる体制にしています。整形外科や眼科など、必要に合わせて受診の付き添いを行なっています。	クリニックは定期往診以外に緊急時に対応している。外出が難しい入居者は訪問歯科を利用している。医師の指示は常勤の看護師が「診療記録」に記録している。申し送りノートで職員と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤として勤務しているため、日常的に体調面などの報告・相談・連絡を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は病院に伺い、入居者様のご様子を確認させていただいておりました。ご家族様と連携し、安心して退院できるよう受け入れの調整を行なっていました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、看護師、介護支援専門員が中心となり、職員一丸となって取り組んでいます。協力病院やご家族様との連携は、状態に合わせて行なっています。	クリニックとの連携で看取りを行っている。家族には「重度化における対応(看取り)指針と同意書」により説明し、状態は医師が説明している。ホームでは、医療的ケアをせず自宅で行うケアを想定している。入居者は家族、仲間として看送る方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行ない、対応できるようにしています。経験を積んでいる職員もいるため、OJTも行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に呼びかけ、火災を想定した避難訓練を行なっています(1年に2回)が、地震などの自然災害を想定しては訓練していないため、いろいろな状況での訓練を行なって一区必要があります。	夜間想定を含め、消火、通報、避難訓練を行っている。出火場所や職員の役割分担が記入された計画書をもとに行っている。前回目標達成計画に記されていた評価できる点や反省点の記載はなされていない。	入居者の生命をまもる為にも訓練後の反省を記録に残していただきたい。次回は反省を踏まえた計画と実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語にこだわることなく、入居者様の尊厳に配慮しています。相手の立場に立ち、相手が「嫌だ」と思わないよう、言葉遣いに気を配っています。	職員は入居者との会話での表情から、好ましくない話題は避けている。入居者の提案を受け止め、職員は実施出来る提案をし、決定は入居者がする。入浴時はカーテンを閉め、居室には無断で入室しない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも自己決定できるよう、声掛けや配慮をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やご気分にもよりますが、その日その日でご自分のペースで過ごすことができるよう柔軟な対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服などを選ぶことが難しい方は、丁寧に声掛けし、お好みの洋服が選べるような配慮をしています。着心地も確認しています。整髪も気配りしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンが対面しているため、食事の準備に参加しやすい環境になっています。お皿への盛り付けや食後の片付け(食器洗い、食器拭きなど)は毎日手伝ってくださっています。	各担当職員が入居者の好き嫌いを考えメニューを作り、看護師に塩分などみてもらう。嫌いな物は代替食を準備している。入居者と買い物に行く。ミキサー食をムース食に替え、むせ込みと便秘の改善につながった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの体調やご気分、疾患等に合わせた柔軟に対応できています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その時々のご気分にもよりますが、毎食後口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	普段はおむつの方でも、下剤を内服してもらったからの排便の際などは、トイレやポータブルトイレでの排泄を介助しています。なるべくトイレで排泄できるよう、柔軟に対応しています。	排泄チェック表で体調を確認している。入居者の生活パターンや紙をたたむ、「家に帰る」と言う等のサインで支援している。便座の高さ調節で足置き台を使用する方もいる。鈴を置き職員を呼ぶ合図に使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量(ジュースや牛乳を含む)をしっかり摂っていただくようにしています。2日排便がない方から下剤を内服していただいておりますが、自然排便の方が増えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が曜日を決めるのではなく、おひとりおひとりの「お風呂に入りたい日」を大切にしています。ただし、間隔があまりに空いてしまった方は清潔を保つ意味でもお風呂をすすめていました。	週に3回位の入浴である。「一日おきに入浴したい」や一番風呂、午前中等の希望に添っている。こだわりのシャンプーや石けん、タオルを使う方もいる。本人の「出来ます」の意欲を大切に、余計な介助はしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の体調に合わせて、休んでいただくことをすすめていました。安心して居室で過ごしていただけるよう、落ち着ける環境づくりを心掛けています。不眠がある方は、相談しながら睡眠薬を服用も検討しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが毎日確認し、誤薬の内容にしています。(薬をセットするもの、読み上げるもの、内服一覧表で確認するものの役割分けとトリプルチェック)薬の内容も共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	麻雀がお好きだった方は地域の老人会の麻雀クラブへ、長年スポーツクラブへ通われていた方は継続できるように、将棋がお好きな方は入居者同士や職員が対戦したりと、様々な支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日その時の天候などをみながらの外出では、ひとりひとりの身体状況により、出かける頻度に偏りが出てしまっています。年に数回の、行事としてのドライブでは、なるべく多くの入居者様に参加してもらっています。	ホーム全体で年に1回のドライブと、ユニット毎に春と秋に定義山等に外出している。少人数や個別の外出が多い。友人と仙台駅集合で食事をしたり、エステ帰りにホテルで食事をしている。楽観観戦に行く方や昔住んでいた所を訪れる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布をお持ちの方が数名います。外出先などではご自分で会計されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	緊急時を除き、あまり遅い時間帯や早朝などでない限りは電話の制限はしていません。手紙のやりとりも、毎年の年賀状や		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペース(食堂兼居間)の壁に、季節ごとの掲示物(入居者様共同制作の作品)を掲示しています。個別の居室では、室内の明るさや温度設定など、その方のお好きな環境になるよう配慮しています。	フロアでは、職員を中心に入居者と作品を作っていた。壁一面にサンタの切り絵やクリスマス飾りのちぎり絵を飾り、入居者の顔写真等が貼られている。オイルヒーターと加湿器で温湿度管理をしている。小上がりのソファを自分の居場所に行っている入居者がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース(食堂兼居間)では、同じ地域で暮らしたことがある入居者様同士や、気の合う方同士での会話が多くみられています。おひとりでも過ごしていても、それぞれの時間の過ごし方が尊重されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人様のなじみの家具や思い出の品などを持ってきていただき、安心して、落ち着いて過ごしていただけるよう配慮しています。	クローゼットが備え付けられている。使い込んだ趣味の筆筒や20年前に手作りした人形、帽子入れ、自分の結婚写真等持ち込んでいる。入居時に職員と相談し自宅と同じように設え、状態の変化で配置を替えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉には、ご自分の部屋と分かるよう「お名前(表札)」を掲示しています。トイレもわかりやすいよう「トイレ」「御手洗」と表記しています。手すりも随所に設け、動作のしやすさと転倒予防に役立っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社クラスタ		
事業所名	やぎあん (ユニット名 2F)		
所在地	仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	令和1年11月29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和1年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別対応に力を入れています。ひとりひとりの生活習慣や続けたいこと、大事にしたい時間など、その方の生活の継続性を大切にしています。最期まで、ひとりひとりがその人らしく、人生を生きることができるよう、悩みながら、工夫しながら、柔軟な対応を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台市バス停「八木山南5丁目」より徒歩5分、街路樹がある大通りに面している。開設11年を迎え入居者は高齢化し介護度も上がっている。隣接する大家と共有する駐車場で夏祭りやホーム前の落ち葉掃き等で地域住民と交流している。開設当初からの入居者と職員は家族のような関係性であるが、馴れ合いになっていないか、関係性の見直しをおこなっている。職員は、入居者一人ひとりの思いを受け止め自己決定出来るように支援している。入居者は自分の思いが受け止められ、思いが達成されることで自信を持ち生きる喜びとなっている。職員は「入居者と職員は壁を感じない仲の良さである」と話している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 2F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我がままに」を事業所の理念とし、毎年更新している年度の介護目標を「誠心誠意まごころのあるケアをします」としています。	ホーム理念は開設当時の理念を継続している。今年度目標は、開設11年になり入居者との関係が馴れ合いになっているのではないかと反省と意見で管理者が決めた。入居者を大切に考えるようになった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に外出した際など、近所の方々と挨拶や季節の会話を交わすことがあります。毎年恒例の夏祭りには、近隣の住民が多数いらっしゃいます。	ホーム主催の夏祭りは今年も回覧板で周知し、70食準備した焼きそばはなくなった。毎年ハロウィンに来訪する園児とお菓子交換を入居者は楽しみにしている。近隣住民とは街路樹の落葉掃除等で顔馴染みである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の散歩や買い物などを通して、地域の方々に認知症の方の生活を理解してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、開催しています。ご家族様や地域包括支援センターの職員、地域住民や近隣グループホームの管理者などに参加してもらい、活動の報告や意見交換を行なっています。	夏祭りや避難訓練に合わせて開催しているが、開催回数や市職員または、地域包括職員の出席数が満たされていない。推進会議に参加した入居者家族から高齢化に伴った看取りについて質問があった。	県ガイドラインでは市職員または地域包括職員等の出席と年6回の開催を求めている。運営推進会議はホームの質の向上の面から重要であり、取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護事業支援課の関係する係とは、適宜連絡を取り、情報交換をしています。八木山地区の地域包括支援センターとも情報共有をし、地域住民や入居に関しての情報交換を行なっています。	担当課窓口へケア加算の要件や書式について相談した。指導係へ事故の報告など行っている。地域包括主催の「アンガーマネジメント」「排泄について」等の勉強会に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とは」の内部研修を行ない、正しく理解したい上で適切なケアを行なっています。防犯上の理由から深夜帯は玄関の施錠をしていますが、それ以外の時間帯は開放しています。	管理者や職員を講師として内部研修を行っている。命令や上から目線、脅し文句は行いませんという「接遇適正宣言」を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。日常の中の「座ってください」などの事例をもとに行った研修は反省できたと好評だった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と合わせて、「高齢者虐待とは」の内部研修を行ない、正しく理解した上で適切なケアを行なっています。普段から入居者様への言葉遣いや対応などについて、職員間で確認し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居様が実際に成年後見制度を利用されているため、対応することにより学ぶことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には十分に時間を取り、内容に変更がある時にはその都度文書や口頭での説明の機会を作っています。内容が伝わりやすいよう、わかりやすいよう配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には日頃から施設の様子をお伝えする手紙をお送りしています(毎月)。運営推進会議や面会時など、ご家族様と話す機会がある時には、情報交換を積極的に行なっています。	やぎあん新聞を送付することで、家族から詳しく知りたいと電話があった。看取りが近い入居者家族から「好きなものを食べさせて」との要望があったり、「親の変化が認められない」などの相談にのっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期・不定期の面談を行ない、アイデアや提案を聞き、管理者に伝えています。個々にあった福祉用具(ベッドやエアマット、車いすなど)のレンタル、パンの移動販売(不定期)など、実施できました。	個人面談では「キャリアアップしたい」「基本に戻る」などの個人目標を立て、研修等に参加している。職員意見でスライドシートや加湿器を購入した。入居者の身体変化からベッド柵を可動式手摺りに変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期・不定期の面談を行なっています。事務所内保管の就業規則は、全職員が閲覧できるようになっており、疑問・質問に答えたいです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職スキルアップ研修や認知症介護実践研修(実践者研修)など、外部研修に職員を参加させています。加え、職員から「参加したい」という研修の希望があった際も、参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域のグループホームとは、お互いの運営推進会議で情報交換を行なっています。地区のネットワークでの勉強会や他施設での勉強会にも積極的に参加し、自己研鑽や情報交換を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活習慣や生活環境などを知ることにより、安心して落ち着いて生活できるよう、生活の継続性を意識して関係づくり、環境づくりをしています。入居者様の思いを伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧にご希望・ご要望を伺うようにしています。なかなか来所できない遠方にお住まいのご家族様とも密に連絡を取り合うことで、安心感を持ってもらえるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の生活が当施設内だけで完結するものと考えず、公的・非公的サービスをつなぎ合わせて柔軟に対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者様の立場に立って物事を考えるようにしています。介護する側・される側という関係性ではなく、共同生活者というスタンスを大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況も理解した上で、施設内で対応できること(通院の付き添いや入院の手続きなど)は代行させてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の老人会への参加を継続するために送迎を行っていました。長年通われていたスポーツクラブやエステへも、ご希望に合わせて送迎させてもらっています。	以前から通っているエステや、友人と食事に行きたい要望があり支援している。入居者同士で、食事が進まない方に声がけしたり、互いの部屋に遊びに行っている。本人が落ち着かない様子に娘が泊まりに来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的元気な入居者様が、他入居者様に手を貸してくださる場面が多く、お互いがお互いに自然に気遣いをされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご様子を聞かせて頂いたり、亡くなった際にはお通夜や葬儀にお招きいただき、ご自宅に訪問させていただくこともありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のご希望を実現できるよう、できるだけ柔軟に対応させてもらっています。(エステに行きたい、スポーツクラブに行きたい、お酒を飲みたい、たばこを吸いたい、外食したい、麻雀を楽しみたい など)	日常の何気ない会話の中で把握し、自己決定出来るような声がけをしている。シャワー浴の入居者が、2人介助で浴槽に入ること手足が温まり表情が変わった。部屋の表札に俳号を連記した方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の継続性を大切に、入居前まで定期的に利用していた施設やお店は通えるように支援しています。独居の方など、把握しきれない方もいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りにより、情報を共有しています。毎日管理者にも報告し、その人らしい生活を支えるための情報共有を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室の担当職員が中心になって、3ヶ月に1度のモニタリングを行ない、ケアプランを見直しています。体調や状態に変化がみられれば、その都度内容を変更しています。	家族の意見は面会時や電話で聞き、医師の意見は往診時に聞いている。外出の機会を増やして欲しいの家族意見に買い物や散歩をプランに入れた。移動時に痛みがある方は医師の指示で様子を見ることとした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常を記録する用紙と、申し送り用の簡易的に記入できる用紙を分けており、職員間で情報共有しやすいよう工夫しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズ(ご希望・ご要望など)には、柔軟に対応しています。活動の場を施設内だけで考えるのではなく、地域資源・社会資源の活用を心掛けていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に行くスーパーや薬局、ドライブで出かける自然環境など、その時々に合わせて生活を楽しめるよう、地域資源を活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	たんぽぽクリニックが1ヶ月に2回、訪問診療に来ています。体調管理や相談など、必要な医療を適切に受けられる体制にしています。整形外科や眼科など、必要に合わせて受診の付き添いを行なっています。	クリニックは定期往診以外に緊急時に対応している。外出が難しい入居者は訪問歯科を利用している。医師の指示は常勤の看護師が「診療記録」に記録している。申し送りノートで職員と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤として勤務しているため、日常的に体調面などの報告・相談・連絡を行なっています。24時間オンコール対応になっています。連絡が取れない時には、たんぽぽクリニックと連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は病院に伺い、入居者様のご様子を確認させていただいております。ご家族様と連携し、安心して退院できるよう受け入れの調整を行なっていました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	たんぽぽクリニック医師よりご家族様へ状態の説明をし、その後介護職員と看護師で、生活の場でできる「看取り」について話し合い、その方が生きられるよう柔軟に取り組んでいます。	クリニックとの連携で看取りを行っている。家族には「重度化における対応(看取り)指針と同意書」により説明し、状態は医師が説明している。ホームでは、医療的ケアをせず自宅で行うケアを想定している。入居者は家族、仲間として看送る方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行ない、対応できるようにしています。経験を積んでいる職員もいるため、OJTも行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に呼びかけ、火災を想定した避難訓練を行なっています(1年に2回)が、地震などの自然災害を想定しては訓練していないため、いろいろな状況での訓練を行なって一区必要があります。	夜間想定を含め、消火、通報、避難訓練を行っている。出火場所や職員の役割分担が記入された計画書をもとに行っている。前回目標達成計画に記されていた評価できる点や反省点の記載はなされていない。	入居者の生命をまもる為にも訓練後の反省を記録に残していただきたい。次回は反省を踏まえた計画と実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語にこだわることなく、入居者様の尊厳に配慮しています。相手の立場に立ち、相手が「嫌だ」と思わないよう、言葉遣いに気を配っています。排泄時や更衣時など、ドアやカーテンを閉めています。	職員は入居者との会話での表情から、好ましくない話題は避けている。入居者の提案を受け止め、職員は実施出来る提案をし、決定は入居者がする。入浴時はカーテンを閉め、居室には無断で入室しない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも自己決定できるよう、声掛けや配慮をしています。意志の表出がなかなか難しい方については、その方の性格や好みを反映した選択になるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やご気分にもよりますが、その日その日ご自分のペースで過ごすことができるよう柔軟な対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服などを選ぶことが難しい方は、丁寧に声掛けし、好みの洋服が選べるような配慮をしています。着心地も確認しています。整髪も気配りしていますが、寝癖がついている時もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンが対面しているため、食事の準備に参加しやすい環境になっています。盛り付けや後片付け(食器洗い、食器拭きなど)は毎日手伝ってくださっています。献立に入居者様の好みを取り入れています。	各担当職員が入居者の好き嫌いを考えメニューを作り、看護師に塩分などみてもらう。嫌いな物は代替食を準備している。入居者と買い物に行く。ミキサー食をムース食に替え、むせ込みと便秘の改善につながった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なかなか食事がすすまない時には、その方のお好きな物を補食として提供しています。安全においしく召し上がれるよう、食事形態の工夫も行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は、毎食後口腔ケアを実施しています。自立されている方も、声掛けを行っていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	普段はおむつの方でも、下剤を内服してもらったからの排便の際などは、トイレやポータブルトイレでの排泄を介助しています。なるべくトイレで排泄できるよう、柔軟に対応しています。	排泄チェック表で体調を確認している。入居者の生活パターンや紙をたたむ、「家に帰る」と言う等のサインで支援している。便座の高さ調節で足置き台を使用する方もいる。鈴を置き職員を呼ぶ合図に使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便の方が少ない現状があります。下剤を服用してもらっても、なかなか出ない時があります。水分を促す以外の取組みは、なかなかすすんでいません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分から「入りたい」と話される方は1名しかいないため、他の方は職員の声掛け・ご案内で入浴されています。	週に3回位の入浴である。「一日おきに入浴したい」や一番風呂、午前中等の希望に添っている。こだわりのシャンプーや石けん、タオルを使う方もいる。本人の「出来ます」の意欲を大切にし、余計な介助はしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の体調に合わせて、休んでいただくことをすすめていました。安心して居室で過ごしていただけるよう、落ち着ける環境づくりを心掛けています。不眠がある方は、相談しながら睡眠薬を服用も検討しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが毎日確認し、誤薬の内容にしています。(薬をセットするもの、読み上げるもの、内服一覧表で確認するものの役割分けとトリプルチェック)効果や副作用は把握しきれいていません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動(配膳、ゴミ集め、トイレの掃除など)が日課になっている方がいます。無理のない範囲で、ご自分のペースで取り組んでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様ひとりひとりに合わせた(行きたいところを聞く、思い出の場所に行くなど)年に数回の、行事としてのドライブでは、なるべく多くの入居者様に参加してもらっています。	ホーム全体で年に1回のドライブと、ユニット毎に春と秋に定義山等に外出している。少人数や個別の外出が多い。友人と仙台駅集合で食事をしたり、エステ帰りにホテルで食事をしている。楽観観戦に行く方や昔住んでいた所を訪れる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が殆どのため、事務所の金庫でお預かりしています。必要なものがある時は、職員が同行して支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の入居者様のご家族(東京在住)から電話が来た際、耳が遠くなかなか会話が噛み合わないことが多いため、職員が仲介しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの方が快適と感じるであろう温度設定をしていますが、1人の方は「暑い」と不調を訴えることが多くあります。	フロアでは、職員を中心に入居者と作品を作っていた。壁一面にサンタの切り絵やクリスマス飾りのちぎり絵を飾り、入居者の顔写真等が貼られている。オイルヒーターと加湿器で温湿度管理をしている。小上がりのソファを自分の居場所に行っている入居者がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース(食堂兼居間)では、同じ地域で暮らしたことがある入居者様同士や、気の合う方同士での会話が多くみられています。おひとりでも過ごしていても、それぞれの時間の過ごし方が尊重されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様のなじみの家具や思い出の品などを持ってきていただき、安心して、落ち着いて過ごしていただけるよう配慮しています。写真を掲示したり、テレビやラジカセなどの家電をお持ちの方もいます。	クローゼットが備え付けられている。使い込んだ趣味の筆筒や20年前に手作りした人形、帽子入れ、自分の結婚写真等持ち込んでいる。入居時に職員と相談し自宅と同じように設え、状態の変化で配置を替えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉には、ご自分の部屋と分かるよう「お名前(表札)」を掲示しています。トイレもわかりやすいよう「トイレ」「御手洗」と表記しています。手すりも随所に設け、動作のしやすさと転倒予防に役立っています。		